たまがわ5
ひろば
ミニコミ紙

昭和61年3月10日一所
鈴木武出張所
玉川第五
TEL. 700-9120
和田
昭和61年3月10日
第7号
発行者
編集責任
事務局

ポルポル 美術館まで歩いてみて

用賀のまちに新しい道が出来ました。用賀獣北口から、区立美術館、砧公園入口までを結ぶプロムナード約1kmです。用賀通りをはじめ緑の多い住宅地内の道路にふさわしく、歩道には瓦が敷かれ、何首かの和歌が刻まれています。下を向いて歩いてはいかがですか。

又、谷沢川の暗渠を利用して小川が出来ました。流れに沿って水飲み場や、何を置くのでしょうか、置物台もあり、ミニ野外展示場として私達の憩いの場になるのでは？。

城南信用金庫北側の小広場には懐かしい地名の中丸橋、玉川地区に沢山見かけに椋鳥の「さぼし」の赤い太鼓橋が目を引きます。

植えられた柳の木が大木になる頃には、美術館通りは地域の人達にかかせない道と、出合いの場になるのではないでしょうか。（大新橋・柳橋）

ふるさとめぐり テクタクコース

川辺　健次郎

ここの地の道は、大昔から大山道と筏道ではないかと思います。

「大山道」は、豊作と恵みの雨を願う農民の信仰の道で「いかだ道」は川筋の筏師が、下っていく仲間の無事を祈りつつ、見え隠れする河原を視やりながら上流へ帰っていった〝愛の道〟であると私は思います。

ふるさとの道は、昔のことを伝える、歴史文化の宝庫でもありますので、何度か地元の有志と語り、「ふるさと歴史探訪」を試みておりました。

このたび、玉川地域活動団体連絡協議会が発足したのを機会に、皆んなで、何か共通の目的で事業をやろうという事になり、地域にある史跡や施設、人々の生活の歴史や文化を忍ばせる場所に、御影石の標柱を建て、文字を浮き彫りにして、子供や大人が小冊子の白ページに鉛筆で拓本するという歴史のお勉強とハイキングを兼ねた様な素晴らしい企画を実行に移すことになりました。

テクテク歩いて拓本を取るので名づけて「テクタクコース」。

（池田）

雨乞い

澤田　茂

それは、この辺りに未だ畑や田んぼが沢山あった頃のこと。

夏の日照り続きで作物が枯れてしまいそうになると、村の主だった人が一堂に集まって『雨乞い』の相談をしました。話しが決まり次第、代参者を四、五名選んで相模の大山、阿夫利神社まで大山道を使って、御水を貰いに出発させました。

代参者は大山に到着し先導の坊（御師）に一泊、翌朝、下社神殿にて御水をいただき、直ちに下山して村に帰って来ました。

村人は代参者が持ち帰った御水と予め用意しておいた水とを一緒に竿天（青竹の周りに藁を束ね縄の様に作った物）にかけ『さんげさんげ六根清浄』と唱えながら**おしめり**がある事を祈りました。

幸い願いが叶い、雨乞いの日より数日後おしめりがあると『おしめり正月』の**触れ**がまわり村人は農作業を休みました。

そして代参者は、大山道を往復した足の疲れを癒やす事ができました。

昔の大山道は雨乞いの道でもあったのです。

アンみちこの頃

鈴木　武一

東西南北みさびだり
小径の次は往還と
幅もひらいて道となり
時の天下のゆく道は
センターロードと
言うのカナ

瀬田を横切る鎌倉道
大山厚木街道も
東西まっすぐ江戸の道
世田谷、青山振り分けも
用賀の坂の追分も
チョン髷草鞋の三度笠
お太鼓タイに
アメ売りも
三味線抱えた姐さんも
みんな歩いた旧い道

ボクら学校行った道
あの娘と並んだ細い道
想い出なんぞとゆうよりも
生活と時を刻む道
今じゃ昔のもの語り
あれから幾年何十年
積もる歳月消え失せて
ショベルが進む壊す道
ダンプが走る造る道
路端を区切るビルの数
往き交うバスも自転車も
粋な帽子もスカーフも
別れと　出合いの
泪のこぶし熱い胸　秘をこめて
月も辱し顔かくす

道はいろいろありまして
文化、とめたり進めたり
そして行きます走ります
道はとどまる処なし
未来にロマンと
夢のせて

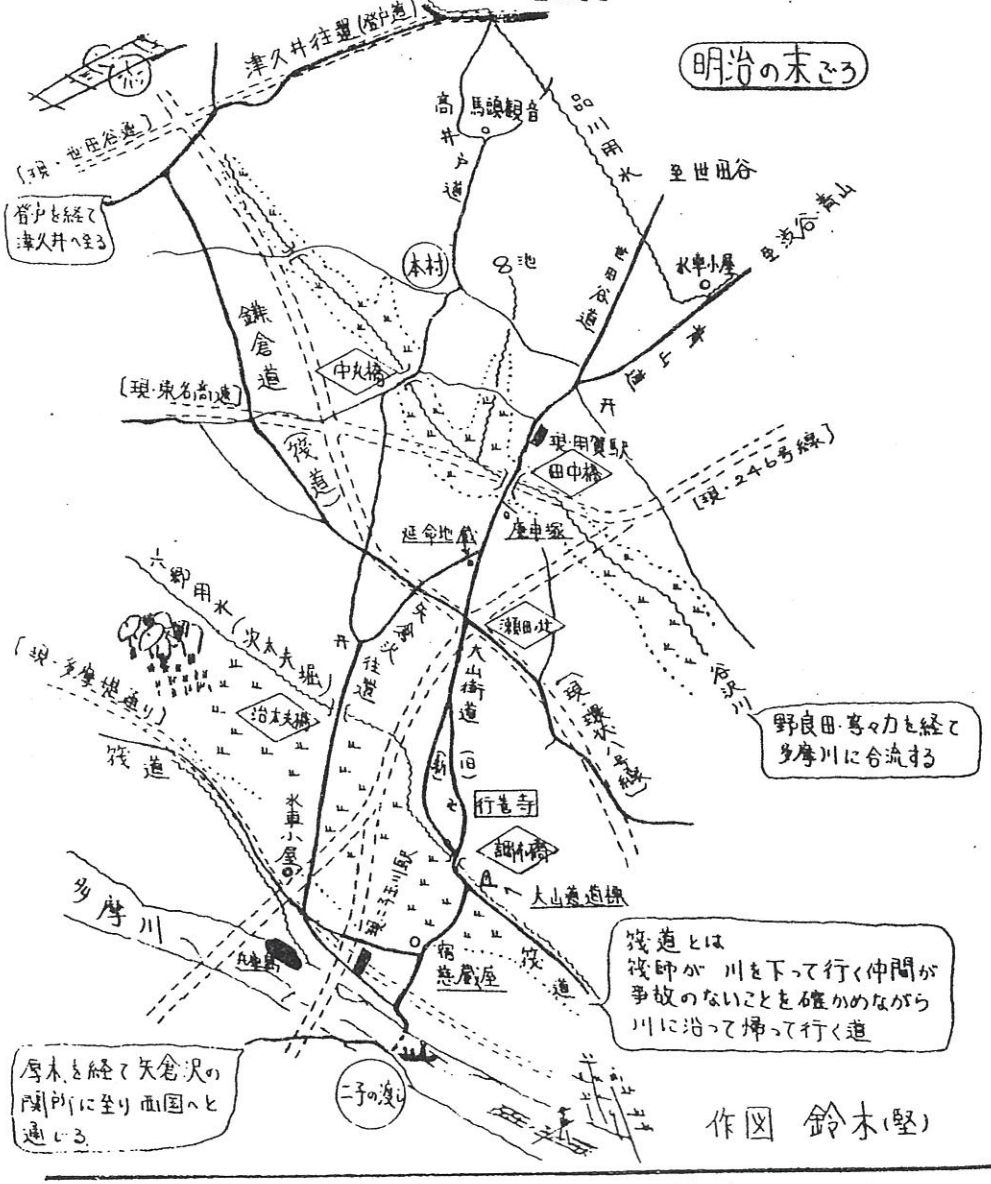
ゆく手は遠く果てしなく

※"ひろば"ご希望の方は玉川第五出張所においてありますのでどうぞ。

回覧										

むかしの道

明治の末ごろ



郷土紹介　大山道

今、東名高速、環状八号線、首都高速三号線という幹線道路を身近にしている私達の町も、一時代遡ると大山街道（国道二四六）が主要道でした。大山道は時代により又場所により色々な名称で呼ばれていました。江戸に向っては、青山道、赤坂道、江戸道・西に向っては二子道、厚木街道、大山街道、矢倉沢往還等々、この中で一番古い名称は矢倉沢往還という事になります。むかし、箱根金時山のそば足柄峠の下に矢倉沢の関所があり、人々はこの関所を通って往来をしていました。東海道箱根の関所が出来る前ですから、矢倉沢往還は中世の道とも言えます。そして江戸時代に入り、中期以後、相模の国大山への庶民信仰が盛んになると、江戸市中の人にとって大山詣での道となり『大山道』と言われる様になります。街道すじにある用賀は宿場として、又瀬田は二子の渡しの発着所として大切な役目をになっていました。

明治以後、大山道は神奈川県と東京を結ぶ物資流通の重要な生活道路として利用され、戦前の一時期、軍用道路の色彩が強まる時がありましたが、現在は玉川通り（国道二四六号線）と姿を変えて、くるま社会の大動脈になっています。（飯田）

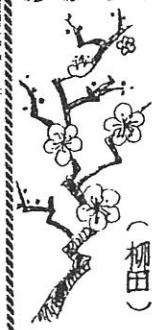
SPOT スポット

緑に包まれた砧の杜（もり）にいつでも誰でも手軽に最高の芸術が楽しめる、世田谷美術館いよいよ開館せまる。（三月三十日　オープン）

花とみどりのあるまちづくりにご参加を！

三月十六日（日）午前十時三十分より玉川台区民センターにて、家庭緑化の集いが開かれます。（玉川台区民センター利用者の会）

用賀の駅構内に化粧室が出来ました。（柳田）



あとがき

暑さ寒さも彼岸まで…庭や道端の草花の蕾みが綻ぶ季節になりました。

ミニコミ紙「ひろば」も回を重ねて七号となり、今回は「あの道、この道」をテーマに、それぞれ分担して編集しました。

先日、久しぶりに会った友人から「この頃のひろば楽しみにしているわよ」と聞かされ、自己満足でも嬉しくなりました。

これからも、地域の皆様に愛され親しまれる新聞にしたいと思いますので、身近なことなどお気軽にお聞かせ下さいますよう。お待ちしています。（高橋）

筆耕・カット（折原）